勝林寺寺報

戦争

「地上から閃光が飛んで来て、まるでテレビゲームを楽しんでいるみたいな気分だった」

「映画をみているみたいだった。地上から火の弾が飛んで来て、自分が狙われていることをはじめて気付きビックリした」

いまアラブ湾岸地域で大戦争が始まっています。この今度の戦争は、いままでの戦争と違って、互いに先端科学兵器を駆使する人類最初の恐ろしい戦争です。

そこに参加しているアメリカの飛行士の実感がいまのことばです。

「まるでテレビゲームを楽しんでいるみたいな気分だった」「映画をみているみたいだった」

この兵士たちは、戦争に飛び立つ何日もまえから、テレビの前に座らされ、テレビに映し出される敵地の映像にむかって、ちょうど子供のテレビゲームのような楽しさで、爆撃命中練習をやらされるのだそうです。

そうしていよいよ敵地へ飛び立ってゆくのですが、本物の戦争をしていても、まだなんともテレビゲームをしているような錯覚からのがれられないと言うのです。

楽しみながら、ゲームをやる調子で戦争が進んでいる。

このことは飛行機の兵隊だけではなく、ひょっとしたら戦争をしくみ戦争をすすめている人達がみんな、そんな錯覚のなかで「楽しみながら」「テレビゲームでもみているような気分で」戦争をしているのではないかと思われます。

戦争が起こってミサエルや爆弾が飛び交えば、敵味方どちらにも、また戦争に関係のない人々にも大量の犠牲者が出るはずです。その「人間のいのち」が全く見えない兵器ゲームの戦争になってしまっているのです。恐ろしいことです。

人のいのちが、テレビ画面にさえあらわれないままに消されていってしまう。

人のいのちが見えないますますすめられる戦争が現代の戦争の恐ろしさです。

これはしかし、考えてみると人ごとではありません。

戦争場面にかぎらず、私達の日常ひぐらしも、いつのまにかそのようになってしまっていないでしょうか。

お金儲けのマネーゲームのおもしろさのなかで、私のいのち人のいのちの貴さを見落としていることはないのだろうか。

汚職・政略のスリルをたのしむ政治ゲームのなかで、人の人権が見失われてしまってはいないか。しあわせ便利を追及する楽しさのなかで、肝心の私のいのち人のいのちを粗末にあつかってしまっていることはないのだろうか。

あなたのいのちは　どうなの
あなた自身　どう生きているのと問いかけてくださっているのがお念仏です。

忙しくて自分を見失いそうになるからこそ、お仏檀の前に座りお念仏申し、自分と人のいのちをみつめなおしてみようではありませんか。

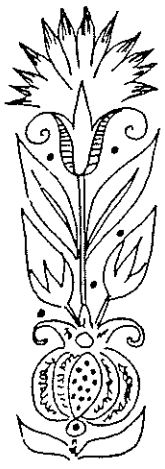
荒井　佳哦
一月十五日
久畑
谷垣　昭子様

祝　成人式

（敬称略）

兼井　幸子（栗尾）
澤田　雅人（小谷）
宮嶋　聡（小谷）
横山　輝和（坪口）
湯口　剛（榎見）
斎藤　明宏（小田）
田中　幸雄（小田）
浜　隆宏（小田）
森戸　哲也（東里）
渋谷奈緒子（唐川）
永井　博（矢根）

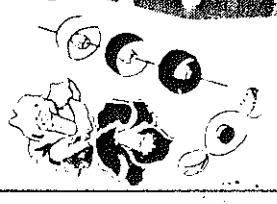
住職の「お祝いのことば」に記念の冊子二部を添えてお贈りしました。



幾御代（いくみよ）に
世次ぎ身継ぐと　伝えきし
もののこの実と
生（ぁ）れしこの児は

親鸞さまは「真実」というものは、つめたいわけのわからぬものではなく「かならずもののみとなって」わたしのいのちにはたらいてくださるもの、それが如来の真実だと教えてくださいました。この児は如来さまのはたらきとして恵まれた子供であるかもしれません。

元日に坂本貢・幾美ご夫妻と祖母摂子、長女典子様に伴われた『このみ』ちゃんが初参式にお参りしました。元気な赤ちゃんでした。およろこびのこころをご両親の名前をいただいて歌に仕立ててみました。



2月のこよみ

三日　瑞泉寺会（京都）
九日　山田まつえ氏宅納骨法要
十日　代議員会
　　ダーナの日
十一日　永井貞雄氏宅法事
十七日　仏教青壮年会
　　理事会・総会
二十二日　兵庫教区総代研修会（城崎）
二十三日　同じ
二十四日　仏教婦人会評議員会
二十六日　「みのりを聞く会」

ご案内

代議員会

二月十日　午前9時半より

☆代議員各位は『議案概要』（「勝林寺寺報臨時号」）によりご協議のうえご出席下さい。欠席の場合は必ず代理をお立て下さい。

勝林寺仏教青壮年会

二月十七日（日）
理事会　九時半より
総　会　午後一時より

勝林寺仏教婦人会評議員会

二月二十四日（日）
午前九時半より
（追ってご案内致しますが評議員様必ずご出席ください）

雀

今朝のラジオに私はめずらしい童謡をきいて、人ごとでなくハッとさせられました。

古い方なら昔おうたいになった懐かしい歌です。

『雀』という題。ええそうです。「雀すずめ　今日もまた…」というあれです。

ラジオの解説によると、あのうた、有名な歌人佐々木信綱が明治32年に『少年世界』という雑誌に載せた歌詞に、「荒城の月」でしられている滝簾太郎が感激して曲をつけたということです。明治の名曲という事にまず驚かされました。

が、それよりも何よりも、これはなんと、この歳にまでなった私に、とても大変なことを問いかけている歌と聞いたのは、私の思い過ごしでしょうか。

《雀　雀　今日もまた　暗い道をただひとり　林の奥の　竹やぶの　さみしいおうちへ　かえるのか》

思えばこの七十年にもおよぶ一日一日を、たった一人で。

行き先しれない暗い竹やぶの奥へ、独生独死。

いまや一人で死んで行かねばならない。

ところがうたは、

《いいえ　みなさんあそこには　父さん母さん　まっていて　楽しいおうちがありまする　さよならみなさん　チユッチユッチユッ》

私自身、いったいそのように死んでいけるのか。

父や母、もろもろの「上善人」（よき人々）と倶に一つ處に出会える如来さまの『お浄土』をめざして、私は「さよならみなさん」と死んでいけるのだろうか。

もし死の彼方に、《父さん母さん待っている》お浄土をみないで、暗い闇へ向かっての人生なら、いったいこの七十年、何の値打があったのだろうか。

今や人生のたそがれをむかえた私。さすが明治の名曲を、しみじみと聞き。聞きながらあらためてお念仏申したことでありました。

ダーナ慰問の方々

訪問に2月11日

亀井　ちえ様（川原）
谷原　ふじ様（百合）
関岡　みね様（坪口）
中嶋　ぬい様（坪口）
湯口　たけ様（榎見）
斎藤　ちゑ様（小田）
渋谷　はつ様（唐川）
数森　道野様（正法寺）
宮嶋　かの様（小谷）
澤田　つま様（小谷）
生田　あい様（出合）
成田　ちゑ様（和屋）
坂本　たか様
古田　ふく様（小人）
湯口いしみ様（たじま荘）
山田やよい様（けやき荘）

ダーナのごあいさつ

勝林寺仏教婦人会長
宮嶋　幸子

「歳月は人を待たず」のことばどおり、月日のたつのは早いものでございます。

激動の昭和も終わって、はや、平成三年の春をむかえました。

おめでとうございます。

日々寒さ厳しいこのごろでございますが、あなた様にはつつがなくお過ごしのことと存じあげます。

本日はダーナの日でございまして、例年のように勝林寺仏教婦人会を代表して敬老のご訪問に参上いたしました。

いつもなら坊守様もご一緒でございますが、おからだのお具合がすぐれず入院中でございますので、よろしくお伝えくださいとのことでございます。

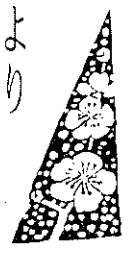
さて、あなた様には、長年おおくのご苦労のなか、家族の皆様と共に生きてこられ、長寿をむかえておられます現在、おからだのご不自由なところも多々おありのこととお察しいたしますが、ご家族や社会の方々の慈悲ぶかいお世話によりお過ごしのご様子、うれしく存じ上げます。

いつでもご院家さまより、ご法話を聴聞させていただいておりますとおり、南無阿弥陀仏の念仏に生かされ、如来さまのお慈悲なかで、一日一日をお健やかにお過ごしくださいますよう念じあげております。

今日ここに、私達、仏教婦人会活動として、敬老訪問により、ささやかではございますが、「ダーナのこころ」をお伝えすることができますれば幸せに存じます。

どうかくれぐれもおからだをお厭いくださいまして、お過ごしくださいますよう念じあげております。

病床だより



一人ではありませんでした。

ご門徒のうちにさえ、あの人この方、それぞれに老いをかかえ病を苦しんでいらっしゃいます。

そのことを、自分が病んでみてはじめて身近に知らせていただきました。

病のなかにいるものどうし、こころからお見舞いし励ましあいたいと思うこのごろです。

一人ではありませんでした。

この孫が毎日病院にきて励ましてくれます。

私の病人食を、私にかわってモリモリたべて、日に日に大きくなってくれるのが何よりの楽しみです。

一人ではありませんでした。

たくさんの方がたのご親切のなかだいいちそっくり如来様のおいのちのなかでありました。

今日からまた、いよいよ新しい治療に入ります。